

①大和川保田遊水地整備事業

受賞機関 国土交通省 近畿地方整備局 大和川河川事務所
奈良県川西町

キーワード 遊水地、上面利用、地域活性化、地域連携

全建賞審査委員会の評価ポイント

大和川中流域における治水安全度の向上のため保田遊水地を整備し、外水及び内水の双方の対策を実現するとともに、遊水地の上面空間を国内初の国際規格に準拠したオーバルトラック等のスポーツ施設として地元自治体と連携して活用することで、治水機能の確保と地域活性化の両立を図った点が評価された。

1. はじめに

大和川の中流域では、亀の瀬狭窄部により、洪水時に水位が低下しにくいことに加えて、多くの支川が大和川へ合流するため、水害が発生しやすい地形的な特性を有する。

このため、大和川の中流域では、河道掘削等の河川整備に加えて、大和川沿いに5つの遊水地の整備が進められている。

2. 事業の概要

保田遊水地は、大和川沿いに整備する5つの遊水地のうちの1つであり、国土交通省近畿地方整備局が整備を行った。面積約7ha、最大約23万m³の洪水を貯留できる遊水地である。また、大和川の洪水を越流堤から貯留するだけでなく、内水取込樋門から地域の内水も遊水地内に取り込む機能を有する「内外水対応型」の遊水地であり、流域治水における先進事例といえる。

さらに、平常時においても、遊水地内の広大な用地を有効利用するため、川西町が遊水地の上面空間を活用して、国内初の国際規格に準拠したインラインスピードスケート専用のオーバルトラックのほか、芝生広場や駐車場等を整備した。なお、これらの施設は、遊水地内への内水取り込みによる冠水頻度を考慮した配置としている。



保田遊水地の概要

3. 事業の成果

保田遊水地を含む5つの遊水地を整備し、洪水を遊水地内に貯留することで、戦後最大規模の洪水が発生した場合でも、堤防決壊等による外水氾濫が回避される。さらに、遊水地内に地域の内水を取り込むことで、外水に対する効果だけでなく、地域の内水被害軽減にも寄与する。

また、川西町が整備した保田遊水地内の上面空間を、新たなスポーツ体験や交流の場となる「オーバルパークかわにし」として一般開放することで、町内外の住民等が気軽に集い、交流することが可能となり、地域の更なる活性化が期待される。さらに、「地域活性化起業人制度」を活用し、現役の日本代表スピードスケート選手がオーバルパークかわにしの運営や企画に携わり、専門的なノウハウとネットワークを活かすことで、地域活性化の実効性を高めている。



オーバルパークかわにし
(オーバルトラック付近)

4. おわりに

保田遊水地の一般開放に併せて、令和8年5月6日に、川西町主催で「オーバルパークかわにしOPENING FES」が開催され、一般の方もオーバルトラックを含む施設を利用できるようになった。本事業により、大和川流域における治水安全度の向上と地域の更なる発展が期待される。

賛助会員 (株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)建設技術研究所、
パシフィックコンサルタンツ(株)、(株)丸島アクアシステム